

独演

椿の海の記

第二章「岩どんの提灯」より

—もうひとつのこの世を求めて—

原作 石牟礼道子

出演・構成・演出 井上弘久

作曲（不知火海のテーマ）金子 忍



〈第一部〉
作品介绍 - 石牟礼道子と
『椿の海の記』をめぐる - (30分)
〈第二部〉
カリンバ弾き語りによる
独演『椿の海の記』(60分)

< 調布公演 >

2024年3月30日(土)

13:00 OPEN / 13:30 START / 15:00 END
16:00 OPEN / 16:30 START / 18:00 END

会場: MNH シアター

東京都調布市調布ヶ丘 1-34-1 ネクストボタンビル 4F

< 藤沢公演 >

2024年4月6日(土)・8日(月)・9日(火)

(6日) 18:00 OPEN / 18:30 START / 20:00 END
(8日・9日) 14:00 OPEN / 14:30 START / 16:00 END

会場: シネコヤ 神奈川県藤沢市鵠沼海岸 3-4-6



4歳の自分＝みっちんを主人公にした石牟礼道子の自伝的小説(全十一章)。
4歳という、通常は言語化されることのない時期の、自らの自意識の目覚めを描ききって、
世界文学的にも他に類のない奇跡の書。水俣病患者たちに生涯寄り添い続けた
「石牟礼道子という魂のすべてが語られている」(渡辺京二氏)と言われる傑作である。

第二章 「岩どんの提灯」の世界

田中優子 (江戸文学・江戸文化研究者)

『椿の海の記』第二章の「岩どんの提灯」で、「道子」の生活の場は栄町から水俣川河口の「とんとん村」に移った。「えらい落ちぶれらいた」と、栄町の人たちには言われたものである。しかしその結果、道子の世界が狭くなったのかというと、とんでもない。前にも後ろにも、そして天空にも足元にも、格段と広くなったのである。

遠浅の不知火海には、「不知火」という言葉の由来である漁火の明滅が見える。干潟からはありとあらゆる種類の貝が出現する。父親の亀太郎と一緒に出かけると、魚のあれこれを教えてくれる。しかしそれだけではない。この章の一つの主人公ともいえる「廃船の竜骨」が登場するのだ。

この廃船が、海の広さと天空の高さ、そして船が経てきた長い時間を眼前に見せてくれる。私は文字で読んだ時、それほど時の空を感じなかった。しかし井上弘久さんの語りを聞いた後、廃船はこの章の中心に位置する特別な存在になった。廃船のへさきには、宇宙さえも見えた。さらに廃船は亀太郎の身体と重なり、その身体によって多様な「石」が見えてくると、そこに「石工」の偉大な存在が立ち現れる。

とんとん村にきたのは父の失策のせいであったかも知れないが、道子はむしろここで、廃船の歴史とともに石工としての父を、敬意をもって見出すのだった。その廃船の竜骨すなわち骸骨の暗示する「死」は、ごく自然に、「死者を焼く隠亡である岩殿(どん)に重なりながら、物語の主人公は岩殿に交代する。

「岩どんの提灯」という時、その提灯は、死者たちを焼くために水俣川の河口の土手道を葬式のうしろからついて行く時の提灯である。行き倒れやよそ者、いわば無縁仏に近い人びとは土葬ができないことから、火葬するしかないのだった。岩殿の兄は皮をはいで太鼓や三味線を作っていた。

死者を送る者、動物の皮を剥ぐ者、彼らは職人でありながら被差別の民であった。とんとん村の丘の上には、癪者の徳松どんの一家も住んでいた。道子は世間から蔑まれるそういう彼らを深く心に刻み、親密な感情を持ち続けている。それは祖母である「おもかさま」や、祖母に優しかった栄町の遊女たちへの思いと重なる。

「彼らは自分でもある」―幼い頃にふと思ったその、世間とはどこか相容れない胸の痛みと温かみは、私自身にも思い当たるどころがある。



井上弘久 Inoue Hirohisa / 俳優・演出家

1952年、東京生まれ。1979年より劇団転形劇場(太田省吾・主宰)に所属。名作「水の駅」「小町風伝」などで、日本および海外各地の舞台を踏む。1990年より劇団U・フィールドを主宰。構成・演出をつとめる。同劇団解散後、2013年より文学作品を一人で舞台化する「朗読演劇」を開始。チャールズ・ブコウスキーの「町でいちばんの美女」カフカの「変身」で好評を得る。2018年より石牟礼道子「椿の海の記」全十一章の連続上演を開始。三年をかけて全十一章の上演を果たした後、現在その全国行脚公演を遂行中。

撮影：スズキマサミ



田中優子 Tanaka Yuko / 江戸文学・江戸文化研究者・法政大学名誉教授

江戸文学・江戸文化研究者で、エッセイスト。法政大学第19代総長。現在は同大学名誉教授。2020年に「苦海・浄土・日本―石牟礼道子もだえ神の精神―」を刊行。女性ならではの石牟礼道子論は説得力に富み、危機的状況を生き抜くための希望を石牟礼道子の著作から導きだす。



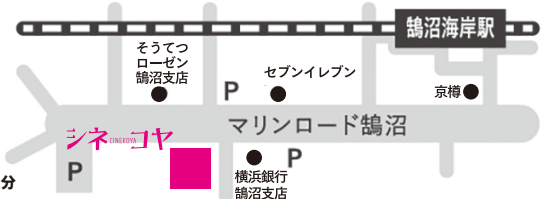
〈調布公演〉

会場：**MNHシアター**
東京都調布市調布ヶ丘1-34-1
ネクストバトンビル4F
●調布駅東口徒歩6分甲州街道沿い
●MNHフェンシングクラブのビル4階



〈藤沢公演〉

会場：**シネコヤ**
神奈川県藤沢市
鶴沼海岸3-4-6
Tel:0466-33-5393
●鶴沼海岸駅から徒歩3分



チケット申し込み
問い合わせ先

【調布公演】2,000円(予約受付中) **TEL 090-9846-1910**(井上)
【藤沢公演】2,500円(予約受付中)

「独演 椿の海の記 ~もうひとつのこの世をもとめて~」公式サイト
<https://www.tsubaki-dokuen.com>



公式サイトはこちら▲